

<活動の概要>

2018 年度は、産業文化研究センター（RCIC）として、これまでの教育事業をさらに発展させた複数の事業を行なった。また、県内の研究機関やイノベティブな企業との連携を目指した取組みの素地となる活動を行った。本学の地域連携や貢献についての実態を把握するために、全学的なアンケート調査を実施、今後の本学で地域連携の取組みを推進する上での参考データを得ることができた。

個人の研究に関しては、研究成果を国際メディアコミュニケーション学会や地域活性学会にて発表した。また、日本島嶼学会や日本マス・コミュニケーション学会などで査読論文が掲載された。さらに、情報通信学会の海外出版での著者に選択され、2019 年夏に共著が刊行される。世界コミュニティラジオ連盟アジア太平洋地区大会では日本の研究者代表としてパネリストやディスカスタントを務めた。

学内プロジェクト研究に関しては、代表を務める「根尾コ・クリエイション」では、4 年間の活動として一つのコンセプトを打ち出すことができた。「池田町有線放送電話プロジェクト」で膨大な放送データや番組資料のアナログ化に着手し、年度末までに完了することができた。

---

<学内での活動>

**1 産業文化研究センター（RCIC）**

2018 年度の業務では、昨年からはじめた教育事業を継続し、さらに多様なシチュエーションでのワークショップを展開した。まず、昨年より大垣市との連携として実験的に取り組んだ「イアマスこどもだいがく」は、参加者から評価を得て、本年度も継続した。今年は大垣市政 100 年事業の一貫と位置付け、実施回数を増やし、また大垣市のさまざまな施設との連携を図りながら、学内の 4 つのプロジェクトとタイアップする形で実施した。

教育事業として、岐阜県職員研修の講座を依頼されたことから、「行政アイデアスケッチ」を企画し実施した。参加した県職員や職員研修所職員の方々から高い評価を受け、2019 年度も引き続き実施する。

昨年からはじめた企画「イアマス OBOG interview」は、サイトのアクセス数も高く広報としても良いコンテンツとして評価され、また卒業生たちにも好評なことから、今年度も継続した。

産学官連携については、2018 年度も多く連携事業が実施された。大学事業としての OGAKI Mini Maker Faire が開催され、会場設営や撤収、運営補助などを行った。RCIC が直にディレクションしたものとしては、揖斐川ワンダーピクニック（揖斐川町）での竹アート、ぎふクラフトフェアでの

のづくりワークショップとアーティストトークイベント、大広との共同研究「アイデアスケッチワークショップ」、長良川鉄道と共同研究「チャギントン列車向けからくりチャガー」の開発、大垣のNuts&Beansとの共同研究「新しい食の情報デザイン」などを実践、コーディネーター、プロデューサー、リサーチャーとして関わった。

イアマスの連携に関して、初めて地域連携と貢献に関するアンケート調査を実施した。調査結果から、全教員のうち95%が地域連携や地域貢献に関わっていること、2015年より連携や貢献数は増加傾向にあり、自治体や関連団体の委員や審査委員、講演や研修などに関するものが多く、授業やプロジェクトを通して地域連携するケースも増えていることなど、全学的に高い地域連携と貢献が明らかになった。この調査結果は、イアマスの地域連携の評価としていく。連携に関しては、例年通り2018連携報告書として発行した。

新たに、より多様な科学技術研究を学ぶことと県内の研究機関の研究者とのネットワーク構築を目的として、勉強会を立ち上げた。2019年3月にはそのキックオフイベントを開催した。同様に県内のイノベティブな企業や起業家などとのゆるいネットワーク構築を目的としたラジオ番組「イアマス波(ウェイブ)」をスタートさせた。番組は2019年4月から、岐阜放送(ぎふちゃん)で放送開始される。

## 2 研究プロジェクト

今年度は代表として根尾コ・クリエイションと池田町有線放送電話プロジェクトを実施した。根尾コ・クリエイションでは、二つの拠点で新たな活動を開始した。一つは、根尾のさまざまな記憶を記録することを目的とした「根尾あんばようしょまいか」をジャッキーハウスで始めた。また、根尾周辺の古材や廃材を循環させていくことを目的とした取組「ねお古材団」を立ち上げ、ねおこ座を使って活動を開始した。今年度は、根尾の水源システムのフィールドワークに力を入れ、IAMAS2019にて展示を行った。プロジェクトの成果の一部は、地域活性学会にて発表した。

池田町有線放送電話プロジェクトは、50年分の膨大なアナログ放送データと番組資料のデジタル化を行い、完了した。

---

<個人研究や学外での活動>

### 1 コミュニティラジオの調査と成果の公開

2017年度からすすめている「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」(科研基盤C代表者)では、北海道(室蘭、洞

爺湖、有珠山、厚真町)、熊本(南阿蘇村、益城町、御船町)、そして神戸長田でコミュニティラジオ局の訪問調査や被災地でのフィールドワークを行った。昨年までの調査の一部は国際メディアコミュニケーション学会(査読付き)で発表した。また、“From Hiroshima to Fukushima: Redesigning Communication Processes for Nuclear Crisis”と題したパネル(査読付き)を企画し、海外の研究者らと有意義な議論を行うことができた。さらに、今年度の成果の一部は、第5回震災研究交流会にて発表し、震災をテーマに多様な分野の研究者との交流を行うことができた。また、成果の一部は2019年の国際メディアコミュニケーション学会(査読付き)でも発表を予定している。

これまで奄美大島の宇検村と名瀬市で長期に亘り調査を行っているラジオ局と現地住民への継続調査を実施した。成果の一部は、『島嶼研究』および『マス・コミュニケーション研究』に論文掲載された(いずれも査読付き)。また、奄美での研究成果の一部は、2019年7月に第15回国際小島嶼文化会議にて発表を予定している。

情報通信学会が海外出版する“JSICR BOOK SERIES: Advances in Information and Communication Research”の著者の一人に選ばれ、これまでのコミュニティラジオ研究の一部を発表する。2019年夏に刊行予定。

## 2 学会発表や著書

### <著書>

Tomoko Kanayama 『JSICR Book Series: Advances in Information and Communications Research Vol. 2 Perspectives of the Japanese Media and Content Policies』Minoru Sugaya 編  
「Chapter 6. Community Radio Broadcasting」. Springer, (2019 Summer to be published)

金山智子『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために(第2版)』大井眞二・田村紀雄・鈴木雄雅「オルタナティブ・ジャーナリズム」pp.196-209, 世界思想社, 2018

金山智子「メディア事業過程モデルによる地域メディア分析--あまみエフエムを事例として」『マス・コミュニケーション研究』Vol. 45: 2019. 7

金山智子「コミュニティラジオにおける儀礼的コミュニケーション: FMうけんの事例研究」『島嶼研究』Vol. 19(2): 47-56. 2018. 8

金山智子「ローカル鉄道の新しい活用の可能性に関する事例研究」地域活性化研究, Vol. 9 (2018年5月発行)

### <学会>

Kanayama, Tomoko “From Hiroshima to Fukushima: Redesigning

Communication Processes for Nuclear Crisis”, 国際メディアコミュニケーション学会（ユージーン）2018

Kanayama, Tomoko・Ogawa, Akiko “The Role of Community Media under Nuclear Emergency Conditions in Fukushima”, 第61回国際メディアコミュニケーション学会（ユージーン）2018

金山智子「震災の記憶と記録の装置としてのコミュニティラジオ～阪神淡路大震災の事例から」第5回震災問題研究交流会（早稲田大学）2019.3

金山智子, 工藤恵美, 野呂祐人, 小林孝浩, 吉田茂樹「限界集落の空き家を活用した地域の記憶と記録のデザイン」地域活性学会第10回研究大会（拓殖大学）2018.9.

金山智子「自走型保護ネコカフェ『ネコリパブリック』：ソーシャル・フィランチャイジングの現状と課題」日本NPO学会 第20回年次大会（東京）2018

### 3 研究助成

「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究（科研基盤C 代表者）」

### 4 その他、調査や活動

専門に関して様々な機会では発表や講演を行った。

- 書評「臨時災害放送局というメディア」『図書新聞』第3388号 2019/2/23
- 世界コミュニティラジオ連盟アジア太平洋地区大会「Community Radio Policy」（ジョグジャカルタ）2018.12（パネリスト）
- No Maps 実行委員会「ローカルX メディア・テクノロジーの可能性を考える」2018.10（パネリスト）
- 放送セミナーシリーズ「ラジオを考える」第3回ネット世代から見えるラジオの魅力～ 東海総合通信局／東海情報通信懇談会主催 2018.8（コーディネーター）
- 2018年日本民間放送連盟賞ラジオ中部・北陸ブロック会審査 2018.7（審査員）

### 5 その他 社会活動など

一社）社会情報学会 評議員 および 編集委員

公益財団法人プランジャパン 理事

特定非営利活動法人地域魅力 監事

名古屋芸術大学 非常勤講師

愛知淑徳大学 非常勤講師

さかの映像祭実行委員会委員（聾啞者の映画）および映画祭審査委員